

自己資本の状況

※信用リスクの算出については、標準的手法を採用しているため、内部格付手法に関する記載は省略しております。
※マーケット・リスクは該当ないため、記載は省略しております。
※記載金額は単位未満を切り捨てて表示しております。

■自己資本調達手段の概要

普通株式	576,200株
第一種無議決権株式	283,800株
合計	860,000株

■銀行の自己資本の充実度に関する評価方法の概要

当社は2006年9月29日に、ヤフー及び三井住友銀行を割当先とした増資を行っております。これに伴い2006年12月18日に、2006年3月末の繰越損失を解消致しました。以上により、2007年3月末現在の資本金は372億50百万円、資本準備金は46億26百万円となっております。また、自己資本比率は41.52%と十分な水準にあるものと認識しておりますが、今後も適切な運営を行ってまいります。

■信用リスクに関する次に掲げる事項

1. リスク管理の方針及び手続の概要

取締役会において定めた当社の与信に関する普遍的な基本方針「クレジット・ポリシー」に従い、信用リスク管理体制を社内規定に定め、適切な信用リスクのコントロールに努めております。

また、資産の健全性を確保し、資産内容を客観的に反映した正確な財務諸表の作成及び適切な償却引当を行うため、取締役会において自己査定及び償却引当の規程を定めております。

各部門から各部門から独立した業務監査室が、信用リスク管理状況等につき定期的に監査を行い、与信業務の牽制を行うとともに、取締役会等に監査結果の報告を行います。

2. 標準的手法が適用されるポートフォリオについて次に掲げる事項

(1) リスクウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

株式会社格付投資情報センター、株式会社日本格付研究所、ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク、スタンダード・アンド・プアーズレーティング・サービスズ、フィッチトレーディングスリミテッドの5社となっております。

なお、複数の適格格付機関が格付をしている場合は、その格付に対応するリスク・ウェイトのうち、2番目に小さいリスク・ウェイトを適用しております。

(2) エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関等の名称

いずれのエクスポージャーも上記5社の適格格付機関を使用しております。

■信用リスク削減手法に関する事項

当社は、リスク管理の観点から、取引相手の信用リスクを削減するため、担保・保証等による保全を行っております。2007年3月末時点においては、政府・中央銀行の保証が付された債権が該当しております。

■派生商品取引及び長期決済期間取引相手のリスクに関するリスク管理の方針及び手続の概要

該当ありません。

■証券化エクスポージャーに関する次に掲げる事項

1. リスク管理の方針及び手続の概要

当社は投資家として証券化エクスポージャーを保有する方針としており、その対象となる商品はABS（資産担保証券）及び買入金銭債権が該当します（2007年3月末時点はABSの保有残高無し）。証券化エクスポージャー商品のリスク管理については、額面ベースでの投資額許容量の上限を認定（必要に応じて個別銘柄毎の投資上限も設定する）し、日次でその遵守状況を管理しております。また、その他に保有する有価証券等の資産と合算したポジション極度による管理も行っております。リスクモニタリングにあたっては、フロント・ミドル・バックオフィスの組織的な分離を行った上で、業務部門から独立したミドルセクションにおいて実施する体制としております。モニタリング結果は日次で社内報告するとともに定期的にALM委員会や取締役会にも報告し、実効性の高い相互牽制機能を確認しております。

2. 証券化エクスポージャーについて、信用リスク・アセットの額の算出に使用する方式の名称

標準的手法を採用しているため、該当ありません。

3. 証券化取引に関する会計方針

当社は投資家として証券化エクスポージャーを保有しており、金融商品会計基準に従い、規定された会計処理を行っております。

4. 証券化エクスポージャーの種類ごとのリスク・ウェイトの判定に使用する適格格付機関の名称

株式会社格付投資情報センター、株式会社日本格付研究所、ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク、スタンダード・アンド・プアーズレーティング・サービスズ、フィッチトレーディングスリミテッドの5社となっております。

なお、複数の適格格付機関が格付をしている場合は、その格付に対応するリスク・ウェイトのうち、2番目に小さいリスク・ウェイトを適用しております。